

長行池 (ながいくいけ)



諸元

貯水量	228.3 千m ³
満水面積	5 ha
受益面積	63 ha
堤高	12 m
堤長	150 m

さぬき市志度町にある長行池は、旧志度町最大の池で、地元では幸田池とも呼ばれています。築造についての明確な記録はありませんが、志度寺所蔵の国の重要文化財の中の「とうがんぼとうのえんぎ當願暮當之縁起」に、長行池にまつわる記述があり、次のような伝説が語り継がれています。

今から約 1200 年前、志度村長行の里に当願と暮當という仲の良い猟師の兄弟がおりました。兄の当願は、豊かな家の娘をめとり暮らしには困りませんでした。弟の暮當は毎日の飯にも困る貧しい暮らしをしていました。

ある日、志度寺の修築法要が営まれ、裕福な兄は志度寺に参拝しましたが、貧乏な弟は狩りに行きました。ありがたい法要の席にいながら兄は「弟はさぞ大きい獲物を捕らえただろう」と殺生心を起こしました。すると兄は、たちまち口がきけず、立つことも出来なくなりました。心配して迎えにきた弟は、兄の下半身が蛇となっているのを見て大変驚きました。兄を背負って帰る途中「体が熱いので池に入れてくれ」というので、弟は泣く泣く兄を幸田の池(長行池)に入れました。この時、兄は片目をくり抜き「この目玉を壺の中に入れておくと汲めども 汲めども尽きぬ美酒ができる」と弟に教えました。言う通りにして売ると、弟の家はたいそう繁盛しました。

一方、兄の体は次第に大きくなり幸田池から満濃池に、その後大槌、小槌の海に入って竜神になったといわれています。村人は、二人の屋敷跡とされるゆかりの地に神様として祀り、干ばつの時には神酒を供えて雨乞いする風習がいまに残っているそうです。



長行池



当願寺